

令和5年度 第3学期始業式

R6.1.9

おはようございます。

そして、明けましておめでとうございます。

とは言っても、「おめでとう」という言葉を使うのは申し訳ないような大変な出来事が、お正月早々に起きていることは、みんなも知っていることでしょう。

だからこそ、みんなには、今日、こうして元気な姿で顔を合わせ、3学期をスタートできることに感謝し、自分と周りにいる友達を大切に、命を大切に、気持ちをもって、この後の始業式に臨んでほしいと思います。

さて、3学期始業式は、12月の全校集会「風が吹けば桶屋が儲かる」の話の最後に触れた「バタフライ効果」の話で、3学期の生活についてみんなに考えてもらうことでスタートしましょう。

まずは、12月全校集会の「どうして風が吹くと桶屋が儲かるのか」の復習から。

「風が吹く」と「砂ぼこりが目に入る」

「//」と「目が不自由な人が多くなる」

「//」と「三味線を弾く仕事の人が増える」

「//」と「三味線を作るには猫の皮が必要なので、猫がいなくなる」

「//」と「ネズミが多くなる」

「//」と「ネズミが家の桶をかじって桶に穴が開いて使えなくなる」

だから「桶の注文がふえて桶屋が儲かる」という仕組みでした。

これは「ある出来事によって、全然関係のないようなところで意外な思わぬ影響がある」ということの例えです。

これと似たような例えに「バタフライ効果」というものがあります。というところで12月は終わってしまいましたので、今日はその続きです。

「バタフライ」というのは「ちょうちょ」のことです。

「ブラジルで1匹のちょうちょが羽ばたく」と「その羽ばたきで周りの空気の流れがほんのちょっと変化し」「それがまたほんのちょっと別の変化を生み出し」「その変化がまた別の変化を生み出し」それが「最終的には、遠く離れたアメリカで竜巻を引き起こす」という話です。このように「バタフライ効果」は「初めはすごく小さな出来事が、最終的には予想もしていなかったような、世の中全体や世界中に影響を与えるかもしれない大きな出来事につながる」という例えです。

みんなには、この2つの例えを参考に、物事の始まりの「風が吹く」と「ブラジルで蝶が羽ばたく」に代わる「自分のできる行動?????」を考えてほしいのです。

「桶屋が儲かる」「アメリカで竜巻を引き起こす」に代わる、最初は予想もしていなかったような最終的な大きな出来事、目指すゴールは全員同じく「自分の学級がよくなる、または庭坂小学校がよくなる」です。

さあ、ちょうちょが羽ばたくぐらいのほんのちょっとの風でもいい、最初に自分がどんな風を吹かせば、最初にどんな行動を起こせば、次にどんなことが起き、その次にはどんな変化が生まれ、最後には「自分の学級がよくなる」でしょうか、庭坂小学校がよくなる」でしょうか。

令和5年度 第3学期始業式

R6.1.9

この「?????」にあてはまることは、今日か明日あたりに立てるだろう3学期のめあてにも十分なりうるものだと思います。

また、ゴールは「庭坂小がよくなる」という大きな変化・影響をあたえることですから「3学期のめあて」という短い期間に限ったものでなくていいです。2024年、辰年、今年1年かけて自分が頑張る目標としてもいいです。とにかく、この「自分の学級や庭坂小がよくなる」というゴールにつながる、自分の起こすほんのちょっとした行動を考えて、そして考えるだけでなく実際に行動してみましょうということが、3学期の始業式で校長先生が一番みんなに言いたいことです。庭坂小の全員、一人一人が蝶の羽ばたきぐらいの風を起こせば、最後には本当に竜巻ほどのすごい風が起きることを信じて頑張りたいものです。

ところで、これはリーダー・イン・ミーで考えると、これも「シナジー」と関係あると考えることもできますが、今回は、第7の習慣「自分を磨く」と関係づけて考えてみてほしいです。第7の習慣は7つあるうちの最後のものですから、これまでの習慣がまだまだだという人には簡単ではないでしょう。しかし、3学期は1年の最後の学期です。その最後の学期に難しい最後の習慣に挑戦してみるのとはとても意味のあることです。各学年のリーダー・イン・ミーの教科書にもありますが、「自分を磨く」を考える時のポイントは「頭・心・体・人間関係」の4つです。

1年生のリーダー・イン・ミーの教科書94ページには、こう書いてあります。

「心を磨く」のところには…

- ・がまんする
- ・ルールを守る
- ・読書

「人間関係を磨く」のところには…

- ・あいさつ
- ・声をかける

例えば、「?????」のところに「心を磨く」の「がまんする」例えば「人に文句を言うのをがまんする」とか「何でも人のせいにするのをがまんする」という風を吹かせたら、そのあと自分の近くでどんな変化が起きるでしょうか、その変化によって、また別なところでは次にどんなことが起きるでしょうか。

6年生の第7の習慣の67ページにはこう書いてあります。

違う考えが出てきた時に、それを否定するのではなく、心の中で「面白い」と思うようにする。そして、常に自分を磨く。「小さなことは大きなこと」どんなに小さなことでも続けていけばいつか必ず大きな力となる。どんなに小さくてもいいのです。まずは、はじめの一步を踏み出してください。

3学期は51日間です。

「自分の学級がよくなる、または庭坂小学校がよくなる」ことにつながる「バタフライ効果」を考えて3学期の学校生活を送りましょう。

終わり！